

「もんじゅ」建設の歩みNo.1

— 用地選定から建設着工まで —
(業務報告)

2002年9月

核燃料サイクル開発機構
敦賀本部国際技術センター

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松4番地49

核燃料サイクル開発機構

技術展開部 技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:

Technical Cooperation Section,

Technology Management Division

Japan Nuclear Cycle Development Institute

4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184,

Japan

© 核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)

2002

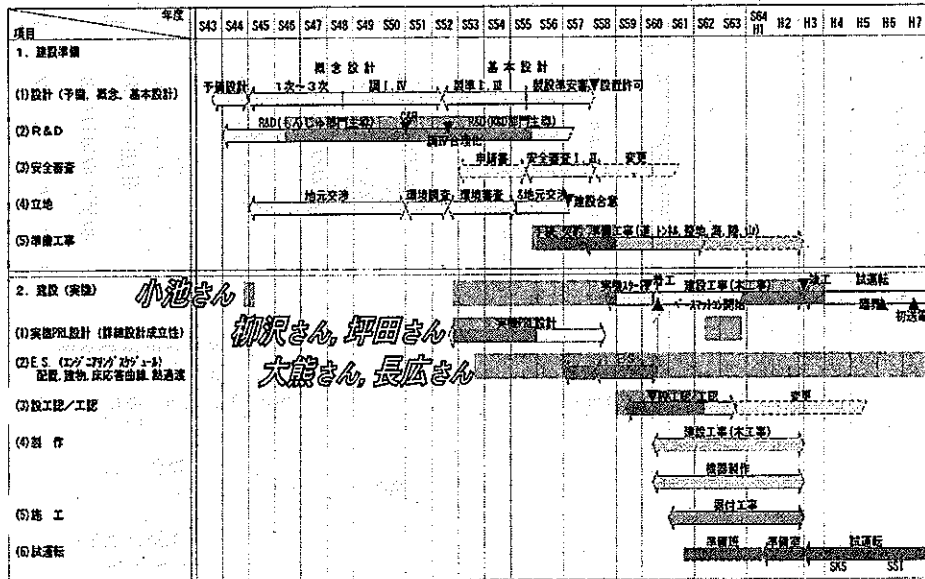
FBRサイクル総合研修特別講座

「もんじゅ」建設の歩み No.1 (用地選定から建設着工まで)

平成14年7月

核燃料サイクル開発機構敦賀本部
もんじゅ建設所

もんじゅの開発経緯



着工までの主な経緯

昭和45年に「もんじゅ」の建設候補地として福井県敦賀市白木地区を選定して以来、科学技術庁をはじめ、関係官庁のご指導のもとに立地調査を行い、地元の建設同意を得るべく努力を重ねてきた。

環境調査は、科学技術庁及び通商産業省による環境影響審査と、立地点が国立公園の特別地域内に該当していることから自然公園法に基づく県による自然環境審査の二本立てで行われ、昭和55年9月に終了した。

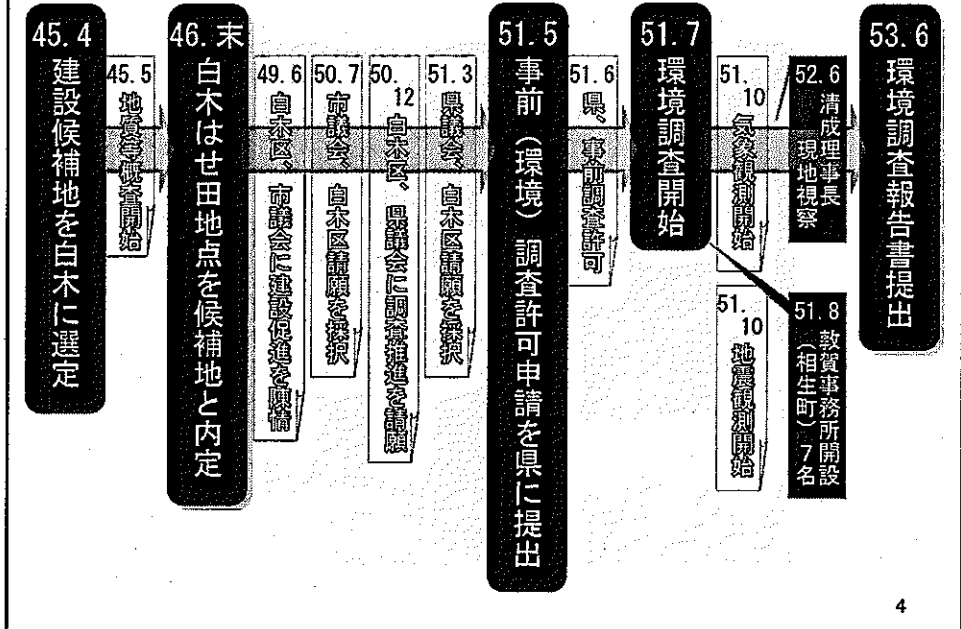
昭和55年12月に内閣総理大臣に原子炉設置許可申請を行い、行政庁及び安全審査委員会等による安全審査を経て、昭和58年5月に内閣総理大臣より原子炉設置許可が下り、建設に向けて大きく前進した。この間、昭和57年5月7日には「もんじゅ」を白木地区に建設することについての地元の了承が得られ、同月14日には閣議了解がなされた。

昭和60年8月の設工認の認可及び9月の工事認可に引き続き10月には自然公園法による許可並びに建築確認を得て、昭和60年10月25日建設工事着工へと至った。

着工までの主な経緯 (S45年度～S62年度)

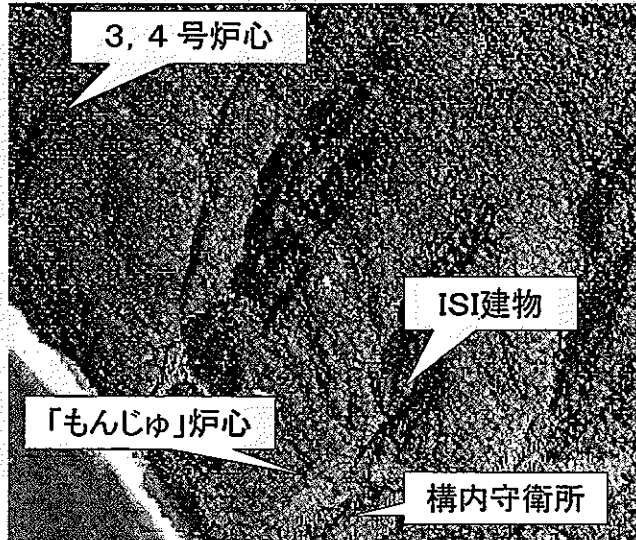
S45	～	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62		
△/4 用地候補の選定		△/7 環境調査開始		△/8 環境影響調査書	△/2 自然環境調査書	△/9 環境審査終了	△/12 原子炉設置許可申請	△/5 閣議建設了解	△/7 公開ヒヤリング	△/5 原子炉設置許可	△/12 設工認/工認申請	△/10 着工	△/2 基礎コン開始	△/7 格納容器建方開始	△/9 設工認/工認申請終了
		環境調査&環境審査				安全審査		白木トンネル・もんじゅ隧道開通60/3		仮設用地・敷地造成・道路・海域等		建設工事(～H2)		設工認/工認	
						S5/12				60/10					

7 建設候補地選定から事前(環境)調査まで



1-1 候補地選定

「もんじゅ」以前の敷地



6

建設候補地の選定

建設候補地の選定

1 条件

- ・ 必要な広さの敷地
- ・ 良好な地盤
- ・ 清浄な海水
- ・ 建設のためのアクセスが良い
- ・ 周辺への影響が少ない
- ・ 地元の受け入れ

2 経緯

①S43年、机上調査開始:通産省が実施した原子力発電所立地地点調査結果などを基に、一部は現地踏査、航空測量などを実施

7

② S44年末頃、白木区から誘致の要望

検討結果：他地点より優れた要素をもっている

- ・ 地元の協力が得られる
- ・ 電力の将来候補地点と競合していない
- ・ 本社等との交通の便が比較的よい
- ・ 電力系統との連携が容易

**③ S45年4月：地質などの概査開始（敦賀市了承、県の内諾）
（当初は白木集落→白木区の要望→はせ田）**

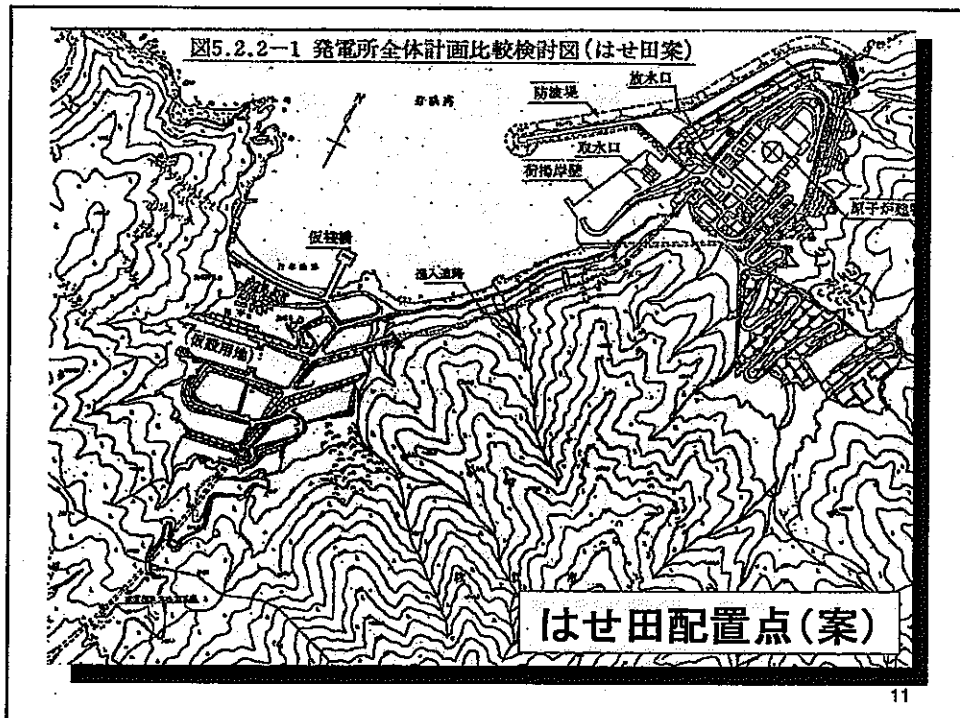
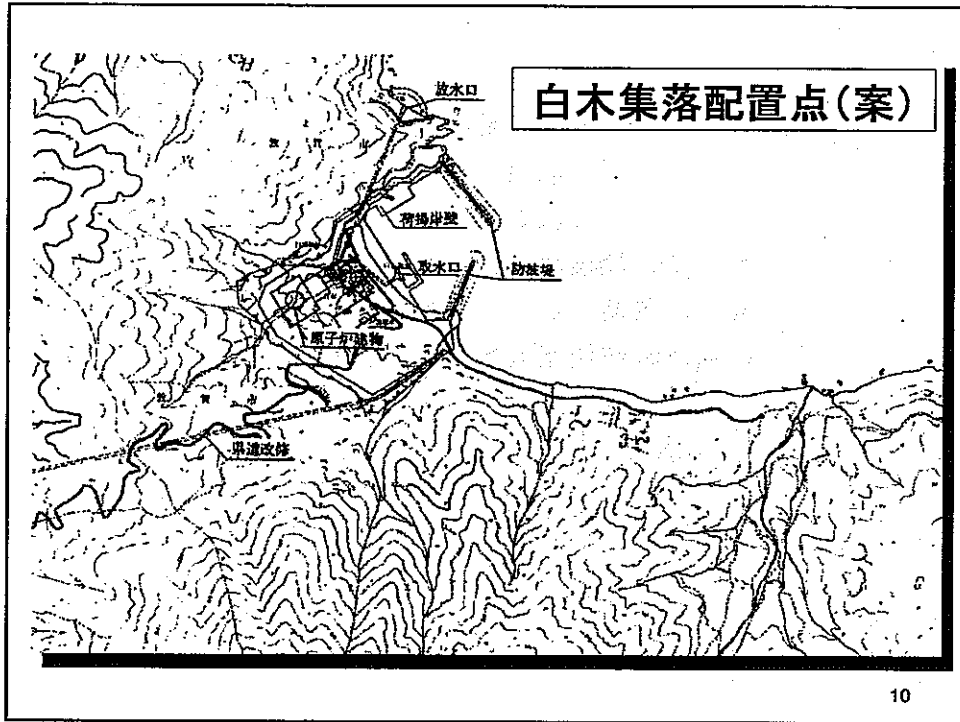
④ S46年末：はせ田を候補地点として内定

8

誘致の理由（「白木の里」より）

- ・ 国策への協力（国のエネルギー政策、まして高速増殖炉）
- ・ 過疎からの脱却
（長年の悲願である県道改修、青年の漁業離れ）
- ・ 安全：一番関心を持っているのが地元の区民
美浜、原教も安全に万全を期している
国や事業団、県、市を信ずるしかない
（無いものと信ずる）美浜、原教、「ふげん」の間
- ・ 温排水：美浜、原教の影響は見られない
（影響があるとすれば）「ふげん」から

9



1-2 環境調査

12

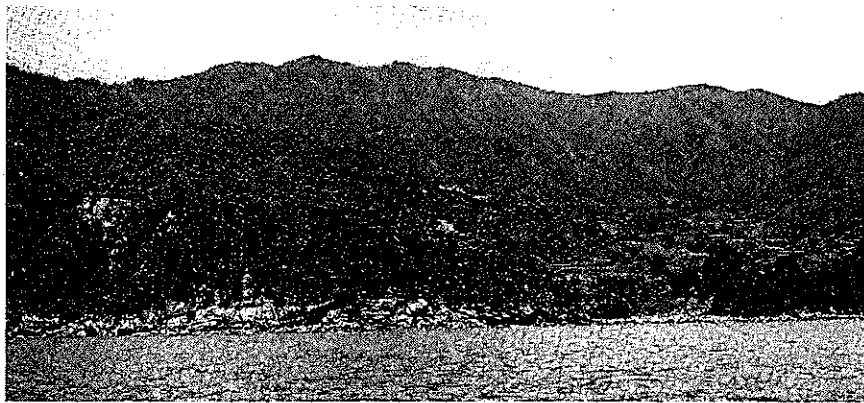


写真4 「もんじゅ」建設予定地

昭和51年6月敦賀市より「もんじゅ」建設予定地の事前調査の許可が下り、同年7月より調査を開始した。調査は自然環境及び一般環境並びに社会環境について実施された。

13

環境調査の内容等

1. 自然環境の現況

(1) 地形・地質

(2) 気象 (風向、風速、気温、湿度、日照時間、降水量)

(3) 海象 (水温・塩分分布、流況・流速、水質・底質、潮位、波浪、漂砂)

(4) 植生

(自然度9=クロマツ/トベラ群生 自然度8=スダジイ/ヤブコウジ群生)

(5) 動物 哺乳類=9種 鳥類=51種 昆虫=210種 を敷地周辺で確認
ニホンカモシカ、ハツチョウトンボ (未確認:キクガシラコウモリ)

(6) 海生生物

海岸動物、浅海生物、海底生物、遊泳動物、魚卵・稚仔、プランクトン

(7) 自然放射能

2. 発電所計画 (配置、敷地造成、港湾、道路、仮設用地、緑化)

3. 自然環境に与える影響

(1) 植 生 : 多少の影響は考えられる。影響が拡大することはない。

現地産樹種による補植し、修景緑化する。

(2) 動 物 : 影響はほとんどない。一時的に移動するが、再帰来が期待できる。

(3) 海生生物 : 浅所の岩のり、ウニは放水口付近で影響あり。護岸によって

海藻類が生育し、回復。プランクトン、魚類、魚卵・稚仔および
漁業への影響はない。

(4) 海象 : 影響なし

(5) 温排水の拡散予測

4. 自然景観に与える影響

白木周辺から眺めた場合変化が生ずるが、修景緑化により最小限に食い止める。

5. 環境保全対策 : 緑化計画 (現地産樹種による植栽)

追跡調査 (水温、水質、底質、海生生物のモニタリング)

① 気象観測

事前調査の開始許可に伴い、建設予定地に気象観測設備を設置し、昭和51年10月から、風向、風速、気温等の観測開始した。

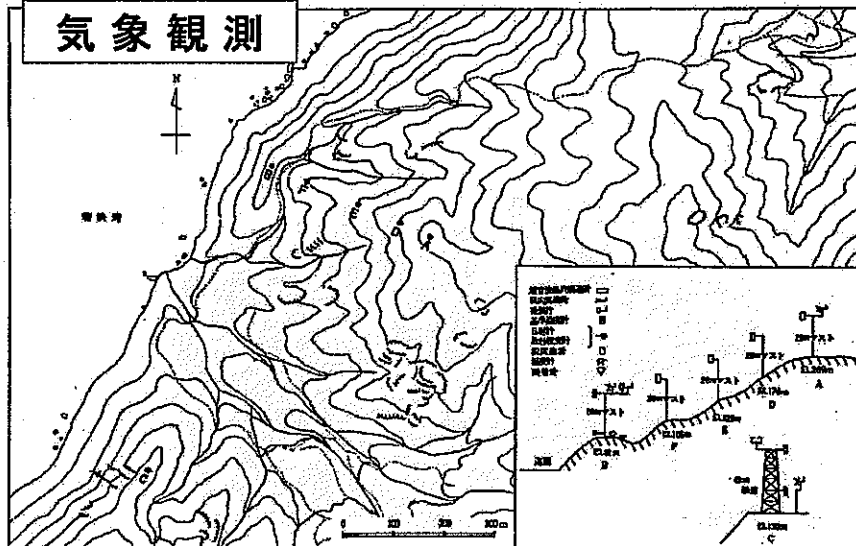
白木地点の月平均気温の最低は昭和52年1月で2℃となっている。

敦賀観測所の年平均気温は14.4℃であり、月平均気温の最高は8月で26.3℃となっている。また、月平均気温の最低は1月で3.7℃となっており、白木地点はこれより冬季は若干低くなっている。

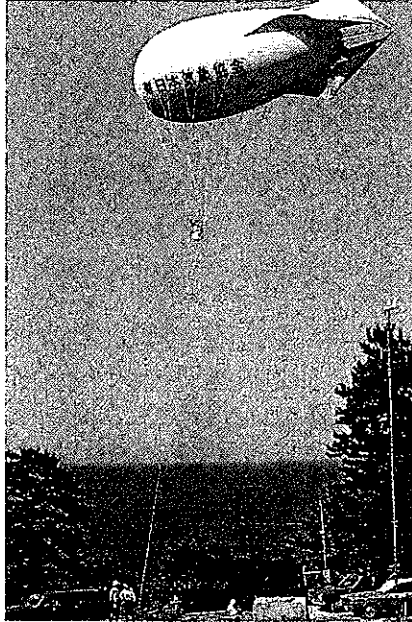
また、年間降水量は約1,550mmとなっており、比較的多雨で特に冬季は雨と雪が連続するが、北陸の他地域ほど深雪ではない。(環境影響調査書)

16

気象観測



17



気象観測

はせ田地区に気象観測設備が設置され、観測が開始された。ここで得られたデータは安全審査資料に供された。観測は将来にわたって継続される。

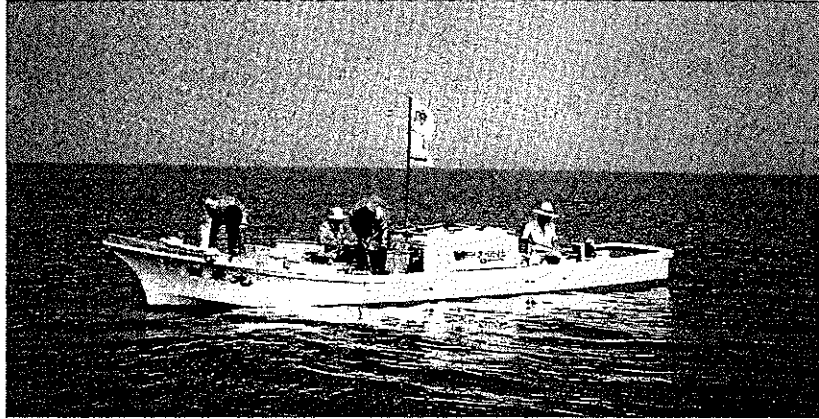
18



気象観測塔(昭和54年12月)

19

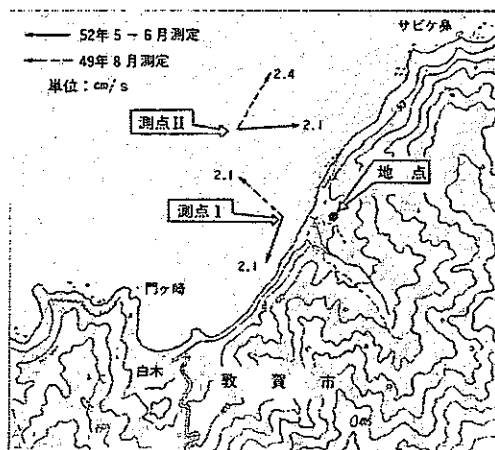
② 海洋調査



海洋調査 “水温・水質” (昭和53年7月)

発電所前面の海域は、日本海の荒波を受け止めるため、前面に防波堤等が設置されること、発電のための冷却水として海水が使用されること等から、水温、流況等の調査が行われた。

20



恒流成分実測図(表層)

● 流況

若狭湾は対馬暖流が越前岬沖合いで北方に転流する海域にあたり、その流況は複雑な様相を示している。流向は場所、水深により異なるが、傾向として湾西部には時計回りの環流、湾東部には半時計回りの環流が見られる。

昭和49年8月及び昭和52年5月～6月に白木地点前面海域で、15日間連続観測を実施した結果を解析すると、沿岸近くでは南西方向に向かう約2cm/s、沿岸から約700m離れた地点では反対に、北東方向に向かう約2cm/sの恒流成分が認められた。

21

③ 動・植物調査

● 動物



サイトに現れたニホンカモシカ
(昭和61年12月)

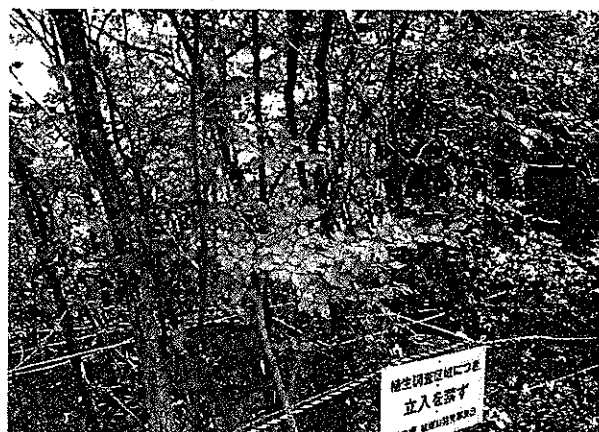
白木地点周辺の動物調査を現地踏査等により実施した。その結果哺乳類ではニホンツキノワグマ、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ホンドテン、イタチ、トウホクノウサギ、ニホンリス、ニホンザル、ニホンカモシカの9種類が確認された。

鳥類は留鳥、夏鳥とも非常に多種であり51種が観察されている。

昆虫類は210種が観察されているが、生息状況は貧相である。

22

● 植生



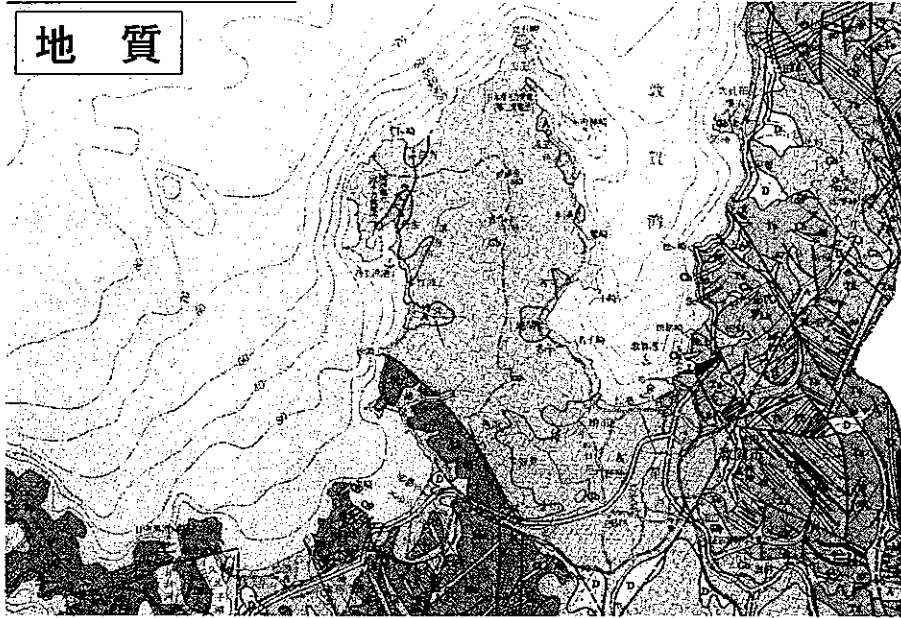
植生調査(昭和58年6月当時)

白木地点周辺の植生調査実施の結果、白木地点周辺は冬季の季節風、海流の影響、急峻な丘陵地形等の理由により比較的複雑な植生がみられた。

認められた植生はクロマツ林、スタジイ林、コナラアカマツ林、クレーコナラ林、ミズナラ林、アカガシ林、スギーヒノキ林及び焼跡植生である。

23

地質

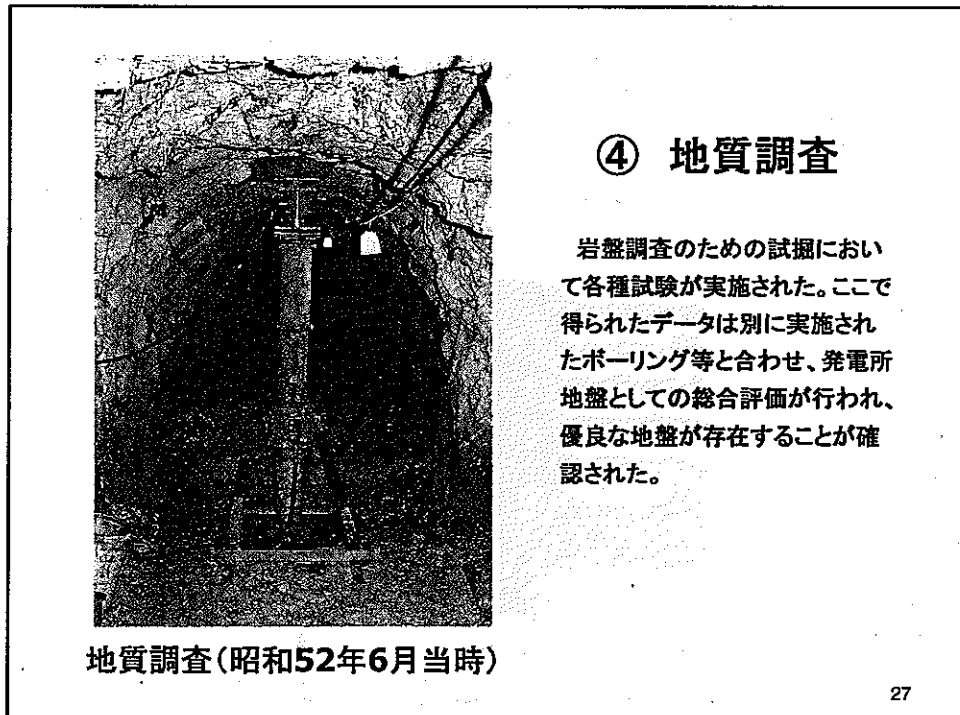
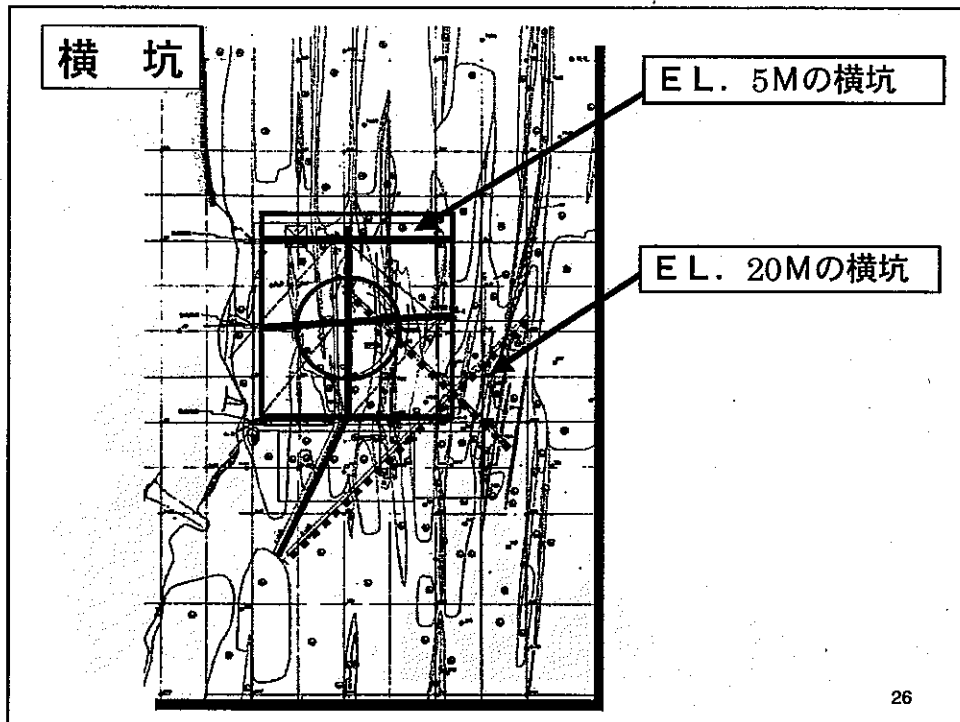


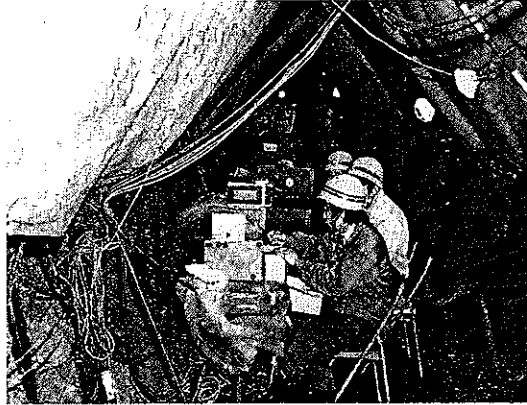
24

ボーリング坑、横坑



25





地質調査(昭和54年11月当時)

地質調査は、「もんじゅ」建設予定地であるはせ田地区と白木地区を中心に広範囲にわたって実施された。特にはせ田地区においては、試掘坑調査(EL+5m:約430m、EL+20m:約310m)を初めとしボーリング調査(265本、約12,000m)、弾性波調査(約22,000m)等、各種調査試験が綿密に実施された。

これらの地質調査の結果、原子炉建物の基礎となる岩盤は堅硬な岩盤で占められており、発電所の設置に適した場所であることが確認された。

28

⑤ 自然放射能調査

●自然放射能

福井県環境放射能測定技術会議により若狭湾周辺原子力発電所付近の空間線量の測定が実施されている。

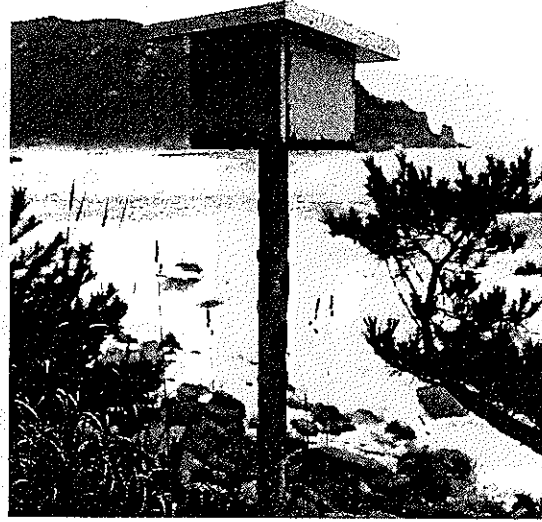
その内、白木地点周辺22点の自然放射線は70~170nSv/h程度で、平均120nSv/hである。

また、白木地点周辺の環境放射能調査を昭和52年上期に行った。空間積算線量は107~208nSv/hで、平均163nSv/hであった。

浮遊じんの放射能は $0.19\sim0.36\text{Bq}/\text{cm}^3$ 、降下じんの放射能は $0.13\sim0.18\text{Bq}/\text{km}^3$ 、陸水の放射能は $0.033\sim0.067\text{Bq}/\text{リットル}$ 、陸土の放射能は $1.5\sim1.7\text{Bq}/\text{g}$ 、農産物、植物の放射能は $0.030\sim0.24\text{Bq}/\text{g}$ 、海水の放射能は $0.067\sim0.074\text{Bq}/\text{リットル}$ 、海底土の放射能は $1.3\sim1.4\text{Bq}/\text{g}$ 、海産物の放射能は $0.070\sim0.35\text{Bq}/\text{g}$ であった。尚、モニタリング計画の一環として、引き続き測定を行っている。

(Sv:シーベルト Bq:ベクレル)

29



自然放射能測定(昭和62年1月)

30

敦賀事務所体制表(昭和52年11月21日現在)

									主査	所付	所付	所長	職制
(兼務)	(兼務)	(兼務)	(兼務)										資株(兼務)
塚本 豊	宮本 正憲	杉本 巖	岩崎 信克	竹岡 健二郎	卯月 亮	石田 義人	旦 雅夫	反保 正翁	大山 康昌	塩崎 信雄	山本 嘉彰	水船 隆昌	氏名
敦賀建設事務所 総務課	高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室兼務	敦賀建設事務所 総務課主査	高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室付	高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室兼務				高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室兼務	高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室兼務	高速増殖炉開発本部 原型炉立地調査室兼務			兼務内容

31

環境審査

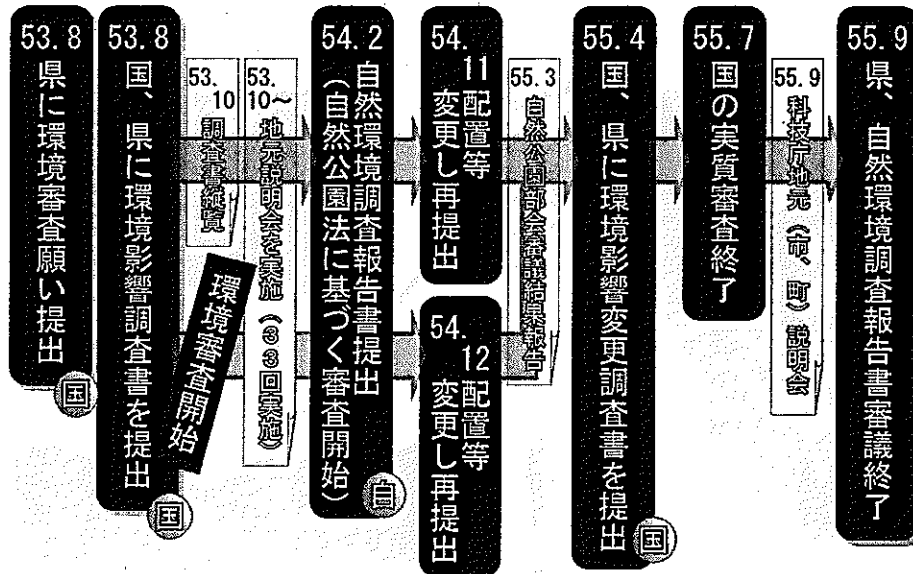
昭和52年10月、約1年余りにわたる事前調査が終了した。これらの調査結果から敦賀市白木地区がもんじゅ発電所の建設地として適しているとの結論が得られるとともに環境審査申請のための準備が進められた。

昭和53年8月にそれまでの調査結果が環境影響調査書としてまとめられ、国(科学技術庁、通商産業省)及び福井県へ提出され環境審査が開始された。

また、「もんじゅ」建設予定地は若狭湾国定公園に位置し、自然公園法の適用を受けるために昭和54年2月同法に基づき自然環境調査報告書を福井県に提出し、同年11月、福井県自然環境保全審議会自然公園部会による審査が開始された。

32

2 環境審査 (S53.8 ~ 55.9)



33

もんしの大半が賛成

地元安全性へ強い要望

動燃説明会で28人が意見表明

敦労評、撤回迫る

青年団、婦人会は慎重論

S53. 11. 15

S53. 11. 22

11. 15

温排水の影響解明を
天部敬賀市長ら意

江川卓と巨人、「空白の一日」つき電撃契約。
北の湖、大鵬の記録抜き年間最多82勝達成。

34

現存植生

炉心位置

クロマツ=トベラ
群集

スタジイ=ヤブ
コウジ群集

凡例

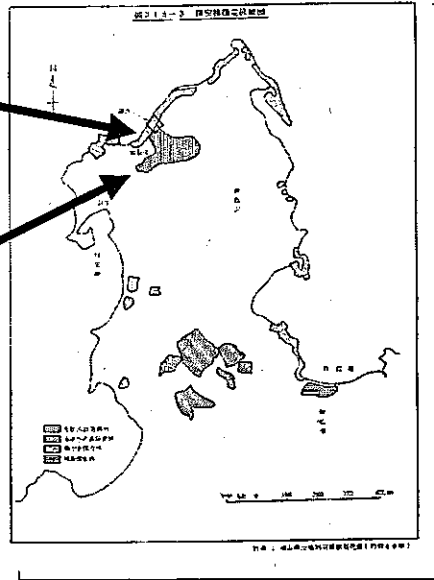
クマツノコ	コナラ群
アサギ	スギ・ヒノキ群
スズナ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草
クマツノコ	雑草

35

周辺の保安林

魚つき保安林

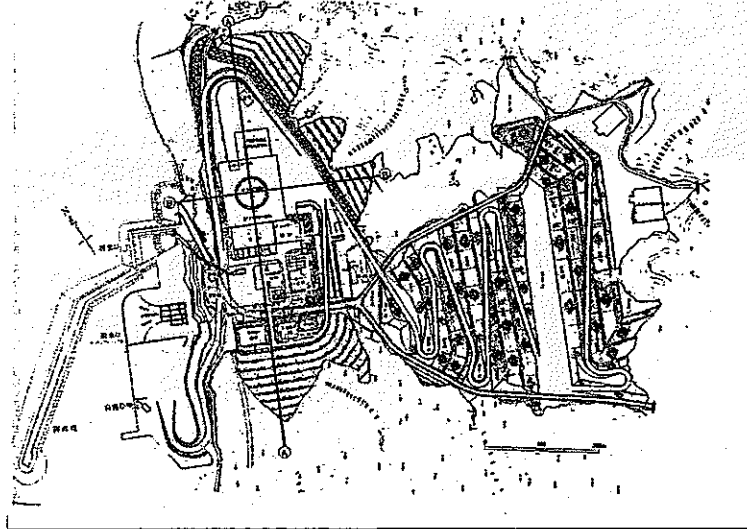
土砂流出防備林



36

配置A案

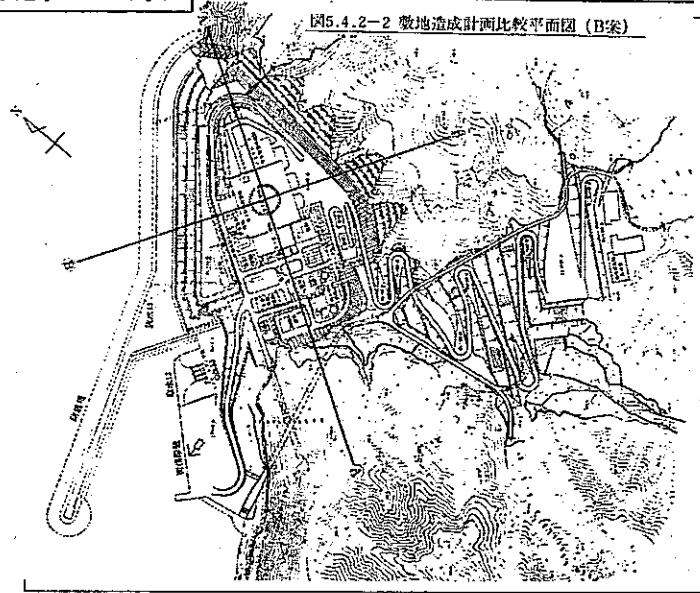
図6-4-2-1 敷地造成計画比較平面図 (A案)



37

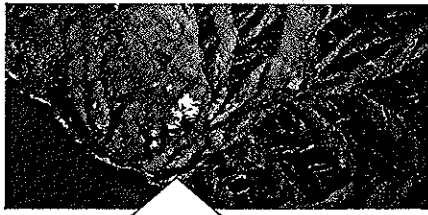
配置B案

図5.4.2-2 敷地造成計画比較平面図 (B案)



38

環境審査における現地調査



ここから南側(写真では右上方向)をみているところ



55年3月

39

クロマツの保護

赤線が旧配置
青線が新配置

緑の部分は残される
黄色の部分のみ伐採

結果、サイト一周の
道路は配置できず

40

白木仮設用地

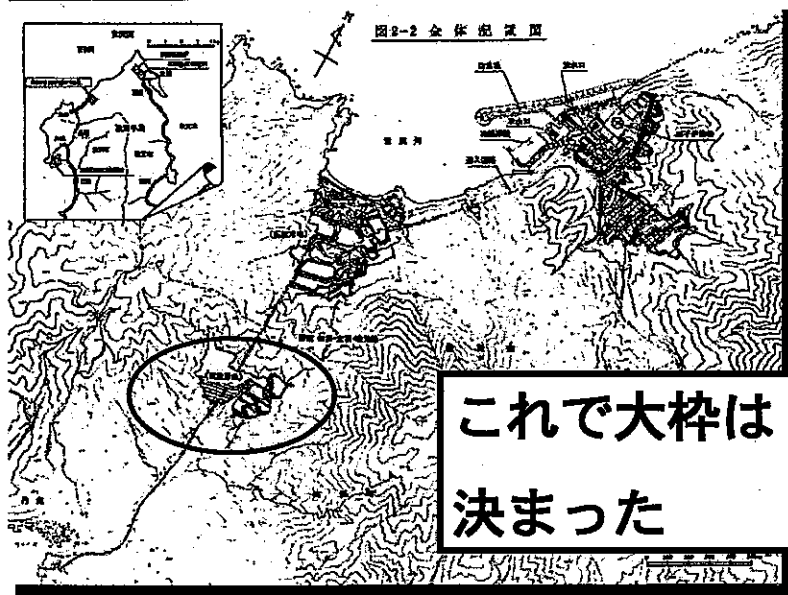
スタジイをできるだけ残す

結果として仮設用地が不足
するので、白木嶺南側（丹
生）に仮設用地を用意

やむなく伐採するところ

41

全体配置計画



これで大枠は
決まった



原 第 542 号
昭和 34 年 9 月 22 日

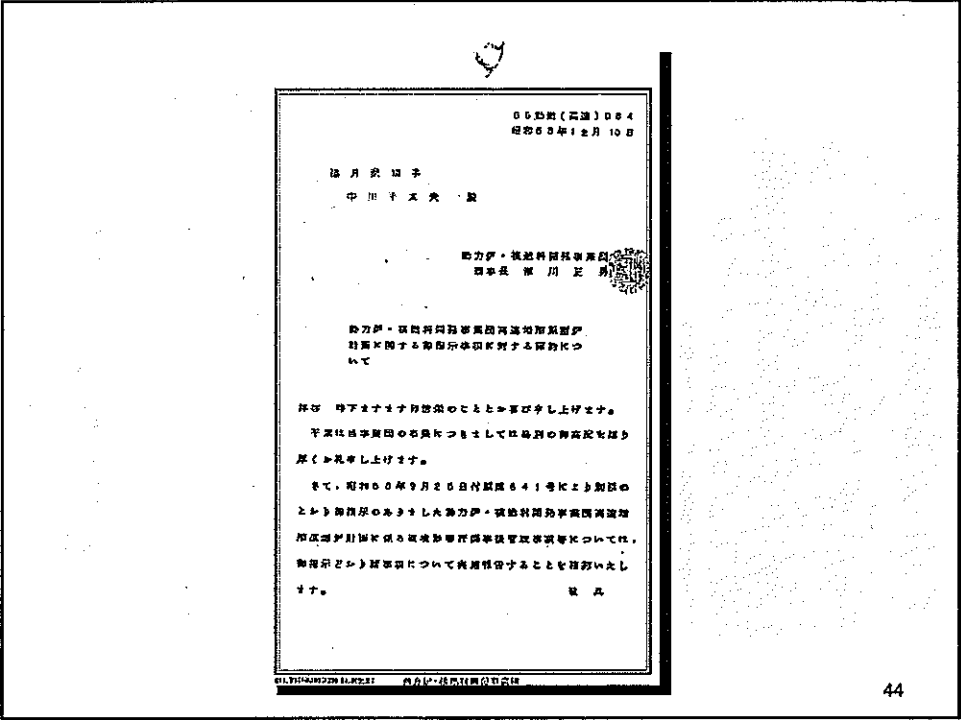
物産部・土木計画課長宛
理事長 中川 正 殿

福井県知事 中川 平次郎

高速道路建設計画に係る環境影響調査報告書
について

昭和 34 年 9 月 22 日付の巻頭（函通）071 をもって
提出された「高速道路建設が環境影響調査」に基づくみだ
しの事業計画については、真意のとおりであるので、事業計
画に基づき調査指示する事項について、早急に回答を提出さ
れ、採択を提出されるよう求めます。

福 井 県



3 安全審査 (1) (一次審査と知事同意)

3 一次安全審査 (S55.12 ~ 57.5)

55.9 科技庁、安全審査入りを県議会に申し入れ

55.12 科技庁、安全審査入りを県議会に申し入れ

55.12 原子炉設置許可申請書提出

56.豪雪、清水町に事務所移転

56.12 1次審査委員の任了

57.2 行政庁審査結果地元説明会 (県、市十町)

57.3 中加大臣、中加知事に協力を要請

57.3 県議会建設促進議員連盟発足

57.3 市議会建設反対決議案不採択

57.3 科技庁、県に建設同意を正式要請

57.4 敦賀市長、建設同意を知事に伝達

57.5 美浜町長、建設同意を知事に伝達

57.5 県知事建設同意

57.5 問題了解

57.5 1次審査終了、2次審査開始

「もんじゅ」安全審査入りで

国が地元説明会

数回 市側へ了解求める



S55.9.14

「環境は問題ない」

「環境は問題ない」として、地元説明会を開催する。説明会では、もんじゅの安全性や環境への影響について説明が行われ、地元住民の理解を深めようとする。また、地元自治体との連携も図られる見込みだ。



最新型の機種並ぶ
建設機、輸送機、作業機

「地元民を無視」

反対団体 7項目の申し入れ

もんじゅの建設が地元住民の生活に与える影響を懸念する。特に、放射性廃棄物の処理や、事故時の避難計画について、地元民の意見を十分に反映させていないと指摘する。反対団体は、建設を進める前に以下の7項目の申し入れを行うことを求めている。

・原子力船「むつ」の放射性廃棄物扱いの廃液二七〇トン事業団が二年間投棄した、と判明。

S55. 12. 10

「もんじゅ」建設へ向けロー

県が安全審査入り了

48

56豪雪

S56年1月

この雪の中で清水町の事務所(※)への移転に取り掛かった。まずは雪下ろし。

※ 道路公団が高速道路を作ったときの事務所

49

もんじゅ安全審査一次審査終了後の
 行政庁からの地元説明会
 (昭和57年2月頃 敦賀市中央公民館)



高木市長

STA中原さん

PNC中井部長

S57. 3. 14



中川長官

もんじゅ建設要請

県と自民に臨工にテクノパーク
 県と自民に臨工にテクノパーク

複数人事を元
 事務の配分を
 県と自民に臨工にテクノパーク

動燃の「もんじゅ」建設

知事に同意要請

57.3.28

科技庁の石渡原子力局長



地元結論待ち

- ・自民党、相次ぐ自治体の反核決議抑制を指示
- ・北海道浦河町沖でM7.1の地震発生。167人重軽傷。

県会「もんじゅ」建設に同意



促進請願を採択

知事月内GOサインか

57.3.20

高速増殖炉原型炉「もんじゅ」

中川知事 建設に同意

57.5.8



来月未公開ヒアリング

中川科技庁長官へ電話連絡
第二次審査へと前進



もんじゅ

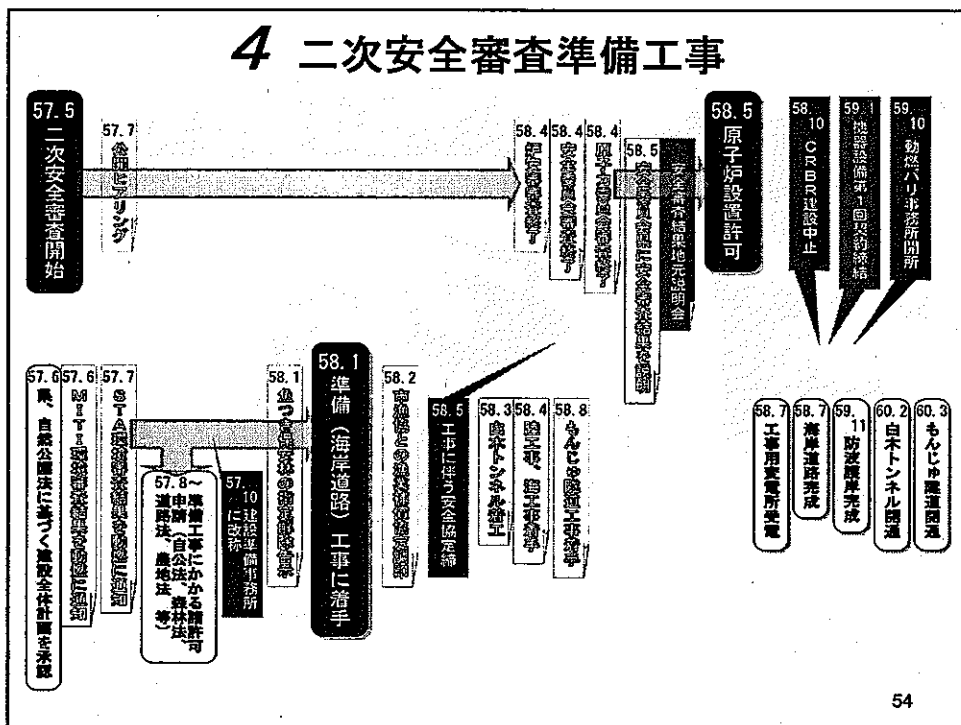
敦賀市美浜町が建設同意

県へ意見書提出

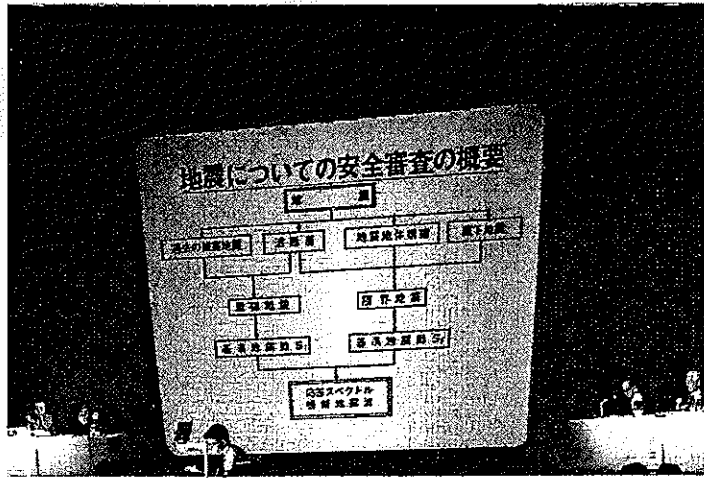
来月公開ヒアリング

57.5.5

4 二次安全審査準備工事



4-1 二次安全審査



第2次公開ヒアリング(昭和57年7月)

昭和57年7月2日、原子力安全委員会主催による公開ヒアリングが開かれた。会場周辺は反対派による抗議デモと機動隊との衝突で終日騒然とした。

S57.7.2

反対派続々敦賀に集結

もんじゅの公開ヒアリング前夜

「阻止」叫び集會、デモ

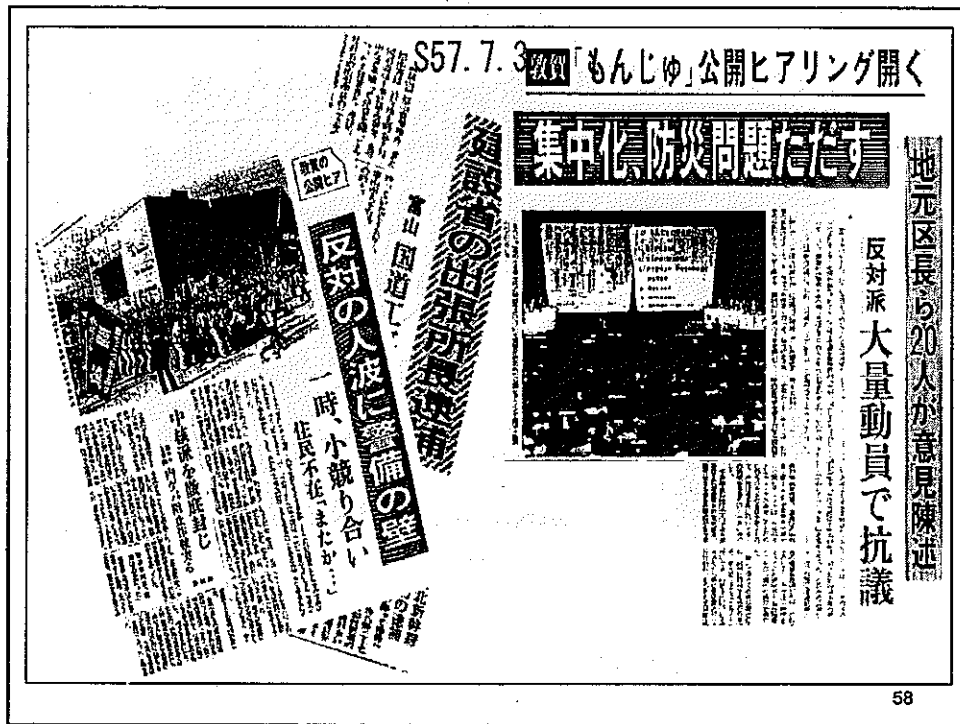
準備陣も2千人深夜まで騒然

過疎脱出かける

漁業不振、町へ峠道
完全な「閉鎖」するしかない

高知県窪川町議会、原発建設の是非を問う
全国初の町民投票条例を可決。

57






4-2 準備工事

61

64自第 19号
昭和57年6月1日

電力部・基礎建設部
環境技術課 川正男 課長

電務課長 中川 平太



新設特別定員特別地域内における高速増速型型
計画について

昭和54年2月1日付付、64自第(高速)222(昭和54年11月26日付計画変更)で提出のらつた上記のことについては「高速増速型型計画に係る自然環境保全指針」に基づき審査した結果、下記条件を付して承認する。

なお、当該計画は若狭再開発会管内のすくた自然環境、景観を有する地域で新たに立地するものであることにかんがみ、申請者としての社会的責任を十分認識のうえ、地域の風土に融合した「道の中の発電所」を志向して、自然環境の保

全に万全を期するとともに、その周辺地域の適切な公園利用についても、必要な対策を講じるよう希願されたい。

記

1 実施計画に際しては、自然環境調査報告書記載事項および新設自然環境保全審議会自然環境部会の指針事項に対する昭和56年2月19日付付、64自第(高速)121による指導事項の内容を遵守するとともに、下記事項について特に留意すること。

- (1) 発電所および変電所地の敷地造成にあたり、外縁部における支柱木の伐採は必要最少限とするよう配慮するとともに、残存樹木の保全についても十分留意すること。
- (2) 建築物および設備等、工造物の外観の色等は、自然景観への影響を考慮して特に配慮すること。
- (3) 悪化等にあつては計画地が美しい自然条件下にあることにかんがみ、植栽土壌改良、湖沼管理等、景観環境づくりに十分配慮のうえ、早急景観に努めること。
- (4) 防波堤用防砂石工については、自然環境への影響を軽減するよう施工方法について十分留意すること。

2 計画地周辺における副産物の適格な管理計画を提出すること。

記 川 正 男

準備(海岸)工事着工



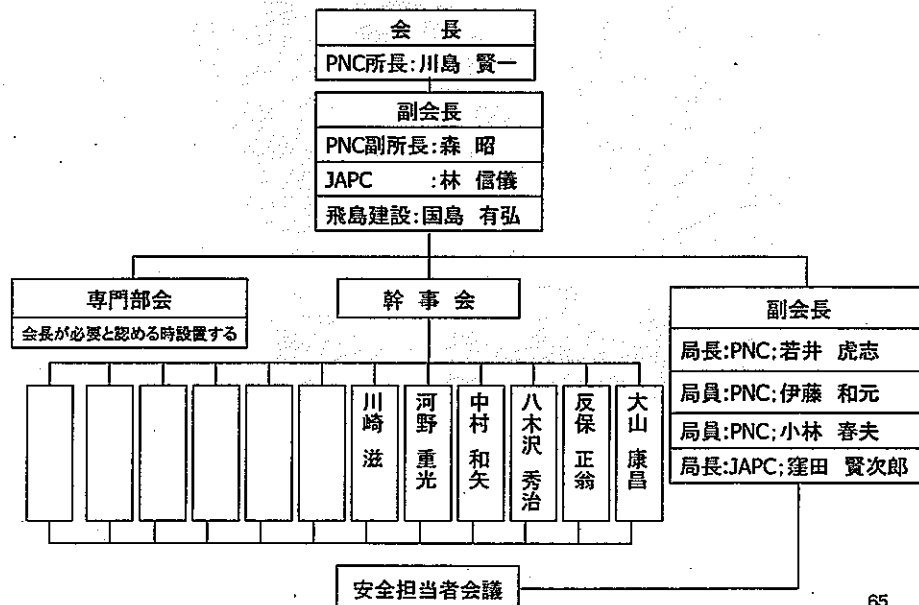


「祝!バンザイ」



準備工事開始 海岸道路工事に着手(昭和58年1月)

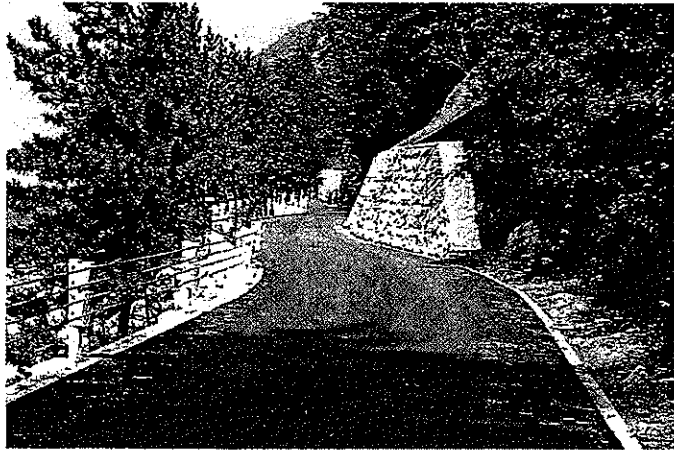
もんじゅ建設準備事務所安全衛生推進協議会組織図





準備工事順調に進む(昭和58年6月)

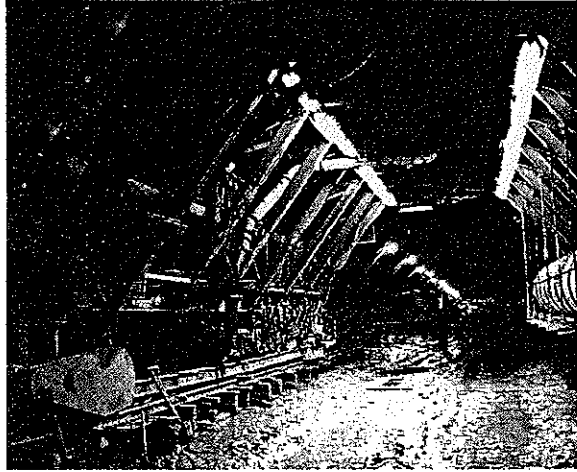
66



海岸道路完成(昭和58年7月)

昭和58年7月、約1.2kmにわたる海岸道路が完成し、建設準備工事のための資材輸送が大幅に改善された。工事は可能な限り元の景観を損なわないよう配慮して進められた。海岸道路はもんじゅ隧道開通まで使用された。

67



白木トンネル(昭和58年10月)

丹生から白木へ至るには標高147.2mの白木峠を越えなければならなかったが、トンネル(約740m)の開通により、輸送力が大幅に増大した。

工事は、昭和58年3月に開始され、昭和58年12月貫通し、昭和60年3月完成した。

68



もんじゅ隧道(昭和59年3月)

白木とサイトを結ぶ道路はいくつかのルートが検討されたが、環境、景観への影響の配慮からトンネル(約920m)案が採用された。

工事は昭和58年8月に開始され昭和59年5月貫通し、昭和60年3月完成した。

69



迂回山道(昭和59年8月)

もんじゅ発電所敷地内に国有地があるため、その払い下げを申請した。迂回山道は払い下げ条件に従い、敷地境界に沿って設置したものである。

70



もんじゅ隧道開通(昭和60年3月)

白木からサイトへの陸上輸送にはこれまで海岸道路が使用されていたが、本格工事前に白木-サイト間にトンネルが開通し、輸送力が飛躍的に強化された。

71

S60. 3. 3

もんじゅ 設計変更

一次系など5設備

S60. 2. 19

10月着工は予定通り

もんじゅの設計変更は、10月19日、原子力委員会から認可された。設計変更の内容は、一次系、二次系、三次系、四次系、五次系の5つの設備の設計変更である。この設計変更は、もんじゅの安全性を確保するために必要とされた。設計変更の内容は、一次系、二次系、三次系、四次系、五次系の5つの設備の設計変更である。この設計変更は、もんじゅの安全性を確保するために必要とされた。

高浜2号が運転停止

高浜2号原子力発電所は、10月19日、原子力委員会から運転停止の認可を受けた。これは、もんじゅの設計変更に伴って、高浜2号の運転が安全に確保できないと判断されたためである。高浜2号は、10月19日より運転停止となる。

区民ら大喜びの通り初め

白木トンネル開通

白木トンネルが開通し、区民は大喜びを表現している。このトンネルは、交通の便を大幅に向上させ、地域の発展に大きく貢献する。開通式は、10月19日に開催された。

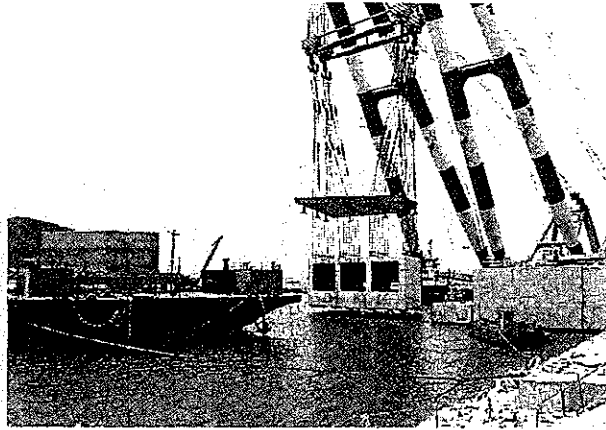
72



写真21 原子力発電技術顧問会委員現地視察(昭和60年3月)

昭和59年12月1日、第1回設工認、同年12月2日、第1、2回工認を科技庁、通産省にそれぞれ申請し、審査が開始された。審査期間中顧問会委員による現地視察が実施された。

73



放水口工事(昭和60年5月)

防波護岸工事と並行して放水口工事も進められた。プラント冷却に使用された海水の放水口位置は防波護岸の南端に位置し、防波護岸を貫通し、発電所前面海域へ放水される。放水口の幅は約19mあり、放水量は毎秒18m³である。

74

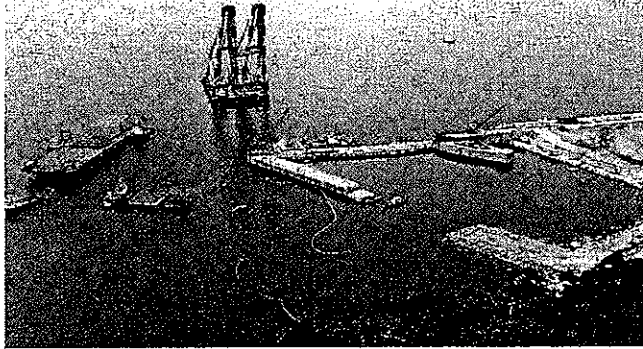


敷地造成工事(昭和60年5月)

もんじゅ発電所の敷地面積は約108万m²であり、このうち約36万m²が造成工事区域となる。準備工事としてはEL21.0mまで造成され、山側には擁壁が建設された。

造成に伴う掘削土は約230万m³であり、このうち約100万m³は山側盛土部、他は海域部の埋立や建物まわりの埋戻し等に使用される。掘削工事は昭和58年4月に開始され昭和60年10月まで続いた。

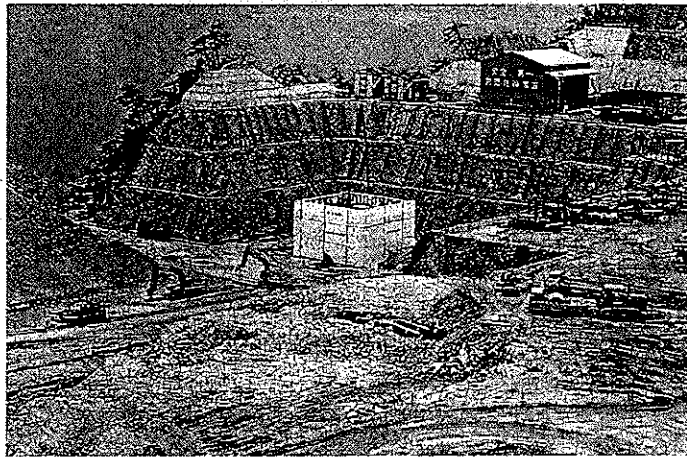
75



防波護岸工事(昭和60年6月)

もんじゅ発電所前面海域の海岸沿いに延長490mに渡って防波護岸が建設された。護岸には一函約800トンのケーソンが使用され、ケーソン前面に12及び50トン級の消波ブロックが設置されている。工事は昭和58年4月に開始され、昭和60年9月に完成した。

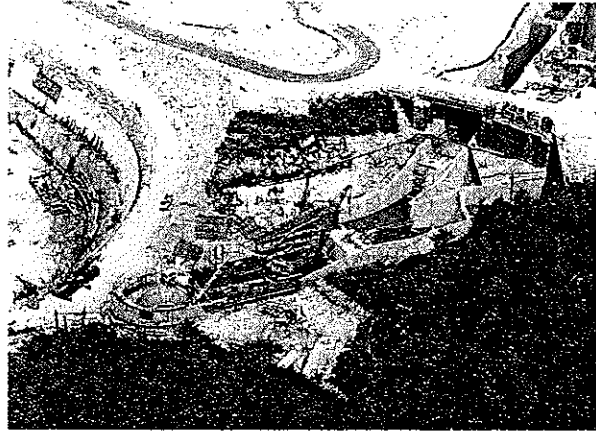
76



サイト振動実験(昭和60年6月)

建物の耐震設計に関する資料を得ることを目的とし、当該地盤の性状を把握するために、サイトに12m×12m×9mのコンクリートブロックを設置して振動実験を行った。

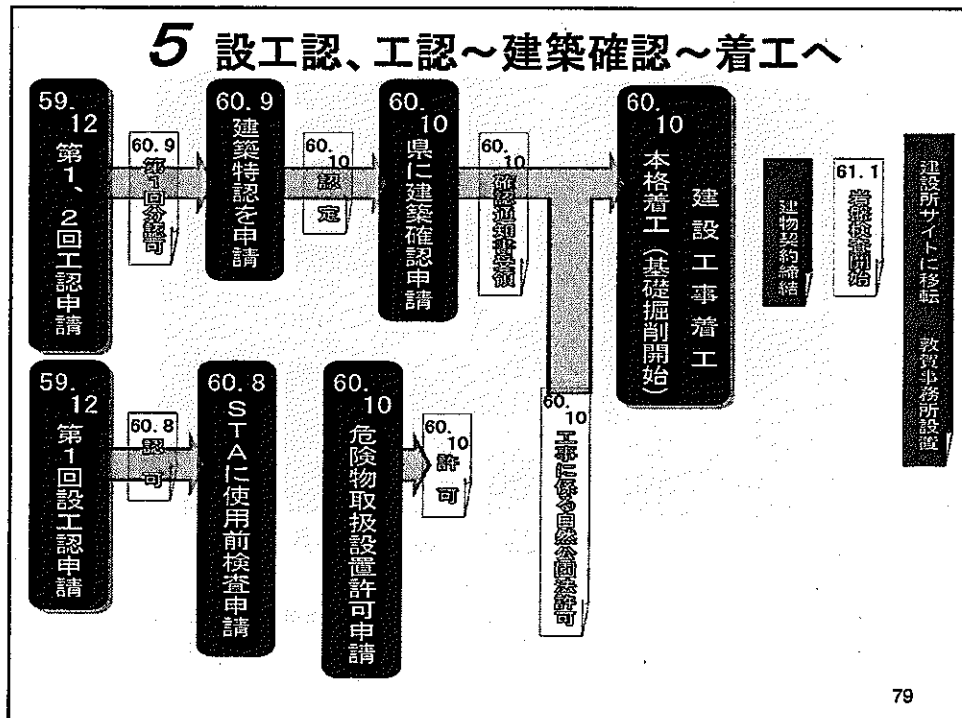
77



中央付替水路工事(昭和60年8月)

「もんじゅ」サイトは山に囲まれ多くの沢が存在している。それらの沢水を9箇所の止水堰に集め、水路を通して海へ放出する。この水路は確率的に200年に一度発生するとされている83mm/hの雨量を安全に流下し得る設計となっている。

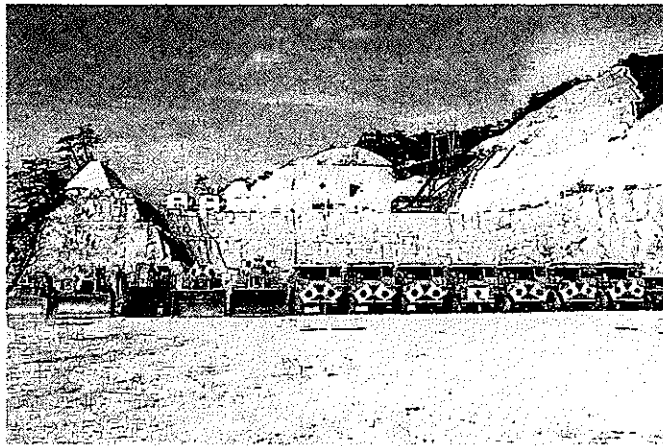
5 設工認、工認～建築確認～着工へ



昭和59年1月31日重電メーカー4社(東芝、日立、富士、三菱)と第1回の契約締結に至った。続いて、第2回分契約は、昭和60年3月に締結され、また、第1次追加発注分及び第1回直接発注分も締結された。

一方、設計及び工事の方法の認可は昭和59年12月1日科技厅へ第1回を、工認は同年12月12日通産省へ第1回、第2回分がそれぞれ申請された。これらの認可は翌昭和60年8月科技厅より、同年9月通産省よりそれぞれ下りた。同年9月建設工事着工に必要な最後の手続き、建設省への建設特認申請、福井県への本工事に係る自然公園法の許可申請及び福井県への危険物取扱所設置許可申請をそれぞれ行った。同年10月7日建設省より建築特認が認定され、同日福井県への建築確認の申請を行った。10月16日危険物関係、10月23日自然公園法関係がそれぞれ許可された。昭和60年10月25日、待ちに待った建築確認通知書を福井県より受理し記念すべき建設着工の日を迎えた。

80



もんじゅ起工式(昭和60年10月)

昭和60年10月28日、待ちに待った建設着工に当たり、関係者多数を集めサイトにて盛大な起工式が行われた。写真は基礎掘削工事域(EL21.0m)に整列した大型トラック類である。岩盤(EL5.0m)まで掘削される。

81

「もんじゅ」本着工

県が建築確認
反対派 中止へ全力

S60. 10. 29



S60. 10. 28

「もんじゅ」が起工

67年秋臨界日指す

数賀・日本

S60. 10. 28

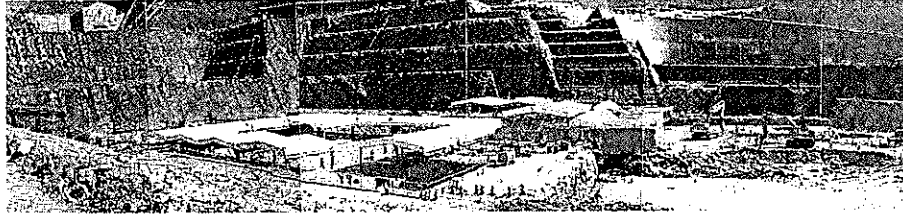
「もんじゅ」建設工事でクワ入れをする関係者

82



「もんじゅ」建設工事着工(昭和60年10月)

83

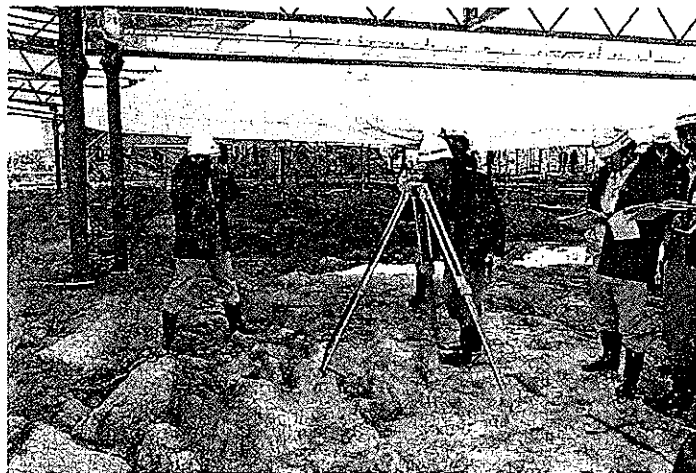


岩盤検査(昭和61年2月)

昭和60年8月、第1回設工認、同年9月、第1回及び第2回工認がそれぞれ科技庁、通産省より認可されたのに伴い、同年10月、福井県に建築確認を申請し、同月25日確認通知書を受け、同日の起工式をもって本格工事に着手した。

準備工事段階でEL21.0mまで掘削された整地面を更にEL5.0mの岩盤まで掘削し、昭和61年1月、第1回の岩盤検査を受検した。岩盤検査は5回にわたって実施され、同年5月8日、全ての検査が終了した。

84

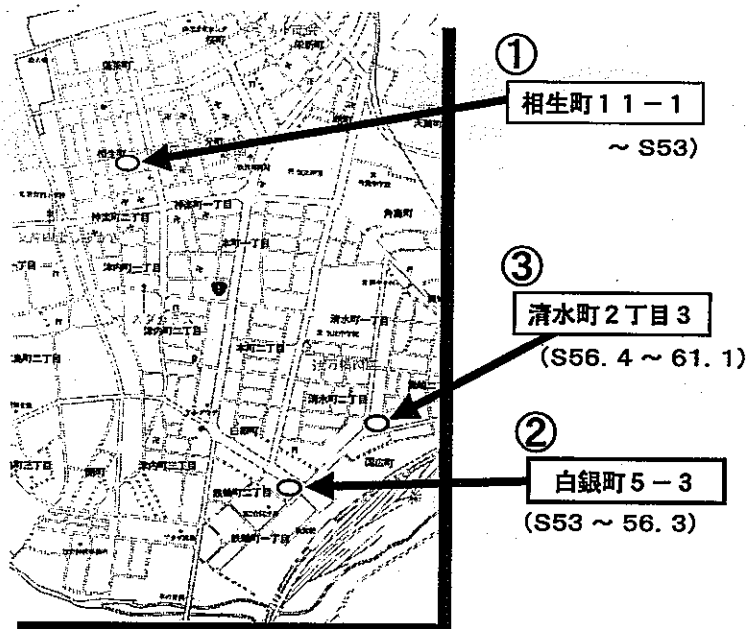


原子炉建物基礎レベルの確認(昭和61年3月)

もんじゅ発電所原子炉建物の設置レベルはEL5.0mである。科技庁検査官立会のもと確認が行われた。

85

もんじゅ建設所の変遷

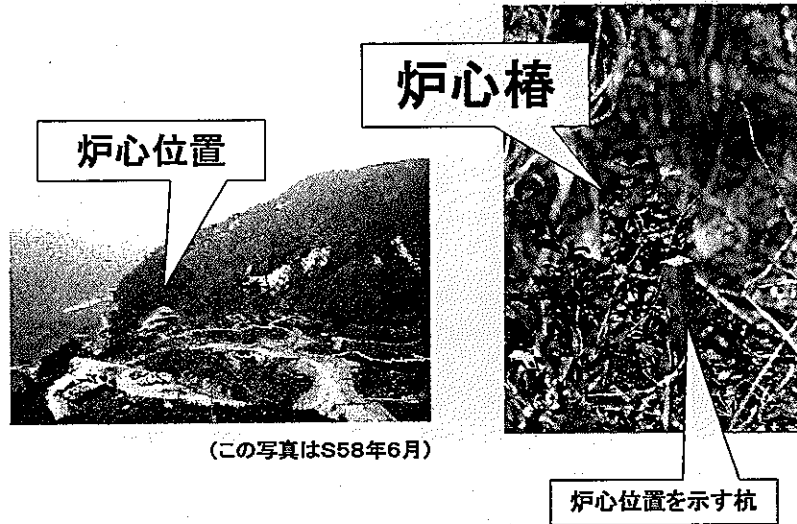


86

6 炉心樁

87

炉心位置



88

炉心椿の変遷



「もんじゅ」炉心椿前花(一輪)
2504 (年: 56 月 5 日)

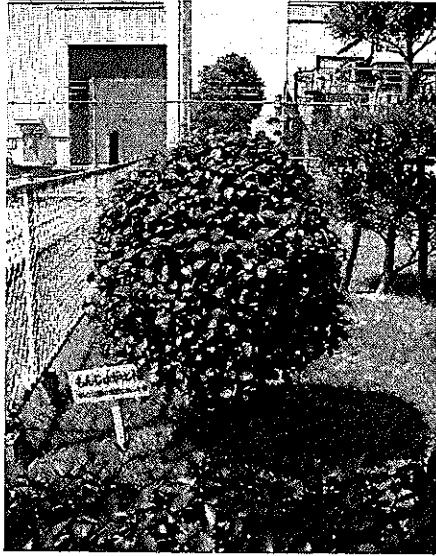


炉心位置の杭



「もんじゅ」炉心椿
(557秋採取)

89



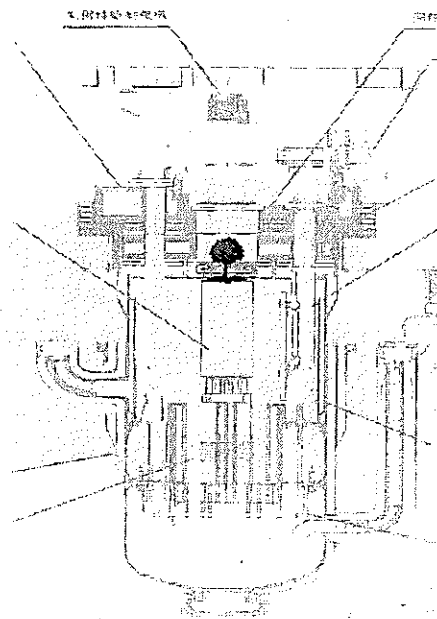
今の炉心樁



事務本館前広場北側（玄関に向かって左側）

平成14年6月28日 撮影

90



炉心樁が生えて
いたところは今！！

91

まとめ

- ・新規立地でこれまでも大変だったし、これからも大変だが、遣り甲斐のあるプロジェクト
- ・多くの先輩、関係者の汗と涙
- ・種々の分野の人の協力(技術だけでは進まない)
- ・先輩も経験があったのではなく、とにかく全力で取り組んできた

もんじゅの若者へのメッセージ

- ・経験がないのは当たり前。頭も体も五感も全てを使う。
自分でやるしかない。人の協力は勿論。
- ・焦らず、怒らず、前向きに
一湿れる松明を心に燃やして一
- ・我が子を育てて世に送り出すように

